

みんなであつくろう。
みんなの
“暮らしやすい!”を。



女性が輝くと、 日本が輝く。

「すべての女性が輝く社会」。

それは、女性が、家庭、職場、地域のなかで力を発揮し、日々生き生きと暮らすことができる社会。

女性が暮らしやすい社会をつくることは、

男性も、高齢者も、障がいを持つ人も、誰もが暮らしやすく

そして活躍できる、社会づくりへとつながっていきます。

その出発点は、日々の暮らしやすさ、「暮らしの質の向上」にあるのではないのでしょうか。

ちょっとした工夫から生活スタイルの変革まで、国民からの提案も踏まえ、

「活動しやすくする工夫」「支えあいのネットワーク」「暮らしやすい空間づくり」の

3つの観点からの提言を紹介します。

この提言をきっかけに、「暮らしの質」向上のための取組に参加していただければ幸いです。

暮らしの中の「あったらいいな」を 国民から募集!

暮らしの提案 プロジェクト

国民からの提案数

4,129

図書館と公園を
併設したコミュニティ
スペースがあると
いいのでは。

老人ホームで
お年寄り子どもが
一緒に生活できない
だろうか。

公共機関、
施設等にベビーカーの
無料レンタルがあると
もっと気軽に
外出できる!

お金を投入すれば
中に入れるシステムの
トイレが外国にあった。
これでキレイなトイレが
増えるのでは。

女性トイレに
DVで悩んでいる方の
駆け込み連絡先の
名刺サイズのもの
置いてあった!

父親が育児に
参加するためには、
残業をなくす、休日出勤
をなくす、有休は必ず
使う! が大切!

集まった意見や提案を参考に、
「暮らしの質」向上を実現するには
どうしたらいいかを

「暮らしの質」向上検討会で 議論・検討。

●実施: 2014年11月4日~12月16日 ●アメールブログを活用
公式ブログ <http://ameblo.jp/kurashinoteian/>

このパンフレットは、有村女性活躍担当大臣の下で開催された「暮らしの質」向上検討会の提言【平成27年5月25日】を整理したものです。詳細

「暮らしの質」向上検討会メンバー

赤池 学 (株式会社ユニバーサル総合研究所代表取締役所長) / 有川 真由美 (作家) / 石田 裕子 (株式会社 STRIDE 代表取締役社長) / 沖 幸子 (フラオグループ株式会社代表取締役 生活評論家) / 門倉 多仁亜 (料理・生活研究家) / 西郷 真理子 (都市計画家) / 嶋津 良智 (一般社団法人日本リーダーズ学会代表理事) / 白土 真由美 (前 株式会社電通 電通総研サステナビリティ研究部長) / 園田 綾子 (株式会社クレアン代表取締役) /



誰もが気持ちよく
暮らせる社会を
みんなで実現!



活動しやすくする工夫

女性の活躍を支える民間等の創意工夫を
日本全国の取組へ

産前産後～子育て期、ボスママ期、介護、困難な状況など、女性のおかれたシチュエーションごとに活動しやすくする民間等の創意工夫ある事例を整理。事例集を発行し、創意工夫の広がりとさらなる発展を促す。



暮らしやすい空間づくり 「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を 実施する。

暮らしやすい空間へと転換する象徴として「トイレ」は欠かせない。清潔性、快適性、安全性の向上だけでなく、国際貢献、成長戦略・経済成長、防災、地方創生、ユニバーサルデザイン化の推進など、多方面で可能性を秘める。快適なトイレを増やすための取組「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を実施。



支えあいのネットワーク 生活スタイル変革のための 国民運動を。

問題・課題に直面した女性に向けて、必要な情報提供のワンストップ化を推進する。また、マタニティ・ハラスメント対策等の環境整備と合わせて、長時間労働抑制、多様な働き方の普及に向けて、国民の生活スタイル変革を呼びかける。

は、URL: <http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kurashinoshitsu/> をご覧ください。



活動しやすくする工夫

女性の活躍を支える民間等の創意工夫を日本全国の取組へ

女性は産前産後、子育て期には活動に制約が生じる一方、子育てが一段落すると、

積極的に社会貢献できるようになるなど、

置かれたシチュエーションごとに、抱える悩みや課題も異なります。

女性のライフシチュエーションを「産前産後」「子どもが乳幼児」「子どもが就学中」「ポスママ・先輩ママ」

「介護・困難な状況」の5つに分け、それぞれの立場に置かれた女性をサポートする創意工夫をご紹介します。

さらなる創意工夫の取組により持続可能な社会にしていきませんか。

すべての女性が、
日々生き生きと暮らすために

女性の活躍を支える民間等の創

子育て前

産前産後



育児スタートラインをラクにする！

地域コミュニティのつながりにより、孤立化を防ぎ、妊娠・出産への不安を取り除くとともに、産前産後をラクにする商品・サービスにより、完璧であらねばというマインドセット*1を解くことで、自信を高め自己肯定感を醸成。

- マインドセットを解き、育児スタートラインをラクに
- 孤立化を防ぎ、自立を促す
- 女性の心と身体の健康をサポートする

子連れスタッフのいるショップで情報・ケア

「いつでも、どこでも、一秒で授乳ができる」を商品化した授乳服を販売。直営店では、子連れ出勤のスタッフが産前・産後に関する自らの経験に基づいた情報提供、相談等を実施。
(有限会社モアハウス)



産後のヘルスケアプログラム

運動生理学に基づく心と体のヘルスケアプログラムの調査・研究・開発・啓発活動を実施。産後の健康な心と体を取り戻し、本来持っている力を発揮できる社会の実現を目指している。
(NPO法人マドレボニータ)



まるのうち保健室

東京・丸の内を中心とした働く女性のための街の保健室。各種測定、診断アンケートの後に、管理栄養士より10～15分の食生活アドバイスをワンコインで受けることができる。

Will Conscious Marunouchi 実行委員会

(主催:三菱地所(株)、三菱地所プロパティマネジメント(株)、一般社団法人Luytelli、(株)タニタ、(株)ABC Cooking Studio、聖路加国際病院附属クリニック 聖路加メディコーカス) ※2015.3現在



まるのうち
保健室
Will Conscious Marunouchi

子育て中

子どもが乳幼児



手がかかるこの時期に、助け合いの仕組みを。

事故・病気の危険性の大きい乳幼児の育児期の、地域コミュニティでの助け合いや、動きやすさ、時短を支援する商品・サービスを提供。すべて背負わなければならないマインドセット*1を解き、親子ともに生き生き暮らせる環境に。

- コミュニティの助け合い等により自己肯定感を醸成
- 安心・安全なキッズデザイン
- 育児保育への対応
- より動きやすく、時短に
- 子連れワークスタイル

子育てシェア



支援を必要としている人と経験や知識を活かして子育て世帯を支援したい人や事業者をつなぎ、親の緊急時に、登録のある地域家庭にワンコインで子どもを預けることができる仕組みを構築。
(株式会社AsMama)

子育てコミュニティ活動



子どもの健全な成長をサポートする「子育てコミュニティールーム」を開設し、ワークショップを開催(年間1,000回以上)。地域の子育て層のサロンになり、地域コミュニティの形成にも寄与。百貨店にとってもWin-Winの関係。
(株式会社 阪急阪神百貨店 西宮阪急)

授乳室・おむつ替え検索地図アプリ「ベビ★マ」

最寄りの授乳室・おむつ替えスペースを検索できる地図アプリ(ユーザーが情報を登録できる自己増殖型)。ICTにより、乳児をもつ親が安心して外出しやすい環境を構築。
(インターリンク株式会社)



※1 マインドセットとは、教育、先入観などから形成される思考様式、心理状態、暗黙の了解事項、思い込み(パラダイム)、価値観、信念などが含まれます。

介護・困難な状況



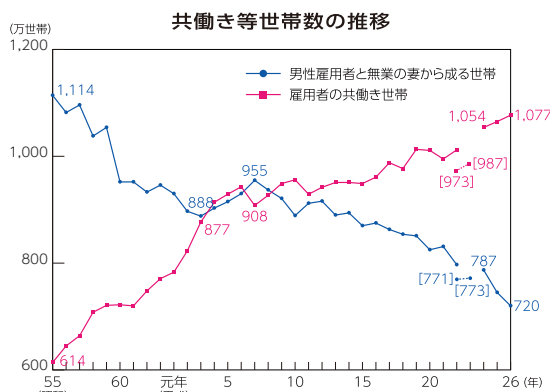
困難な状況をサポートする仕組みづくりを。

介護や様々な困難な状況に寄り添うケア、就労、多様な働き方のサポート等の仕組み・環境づくり、生きづらさを抱える人への生活相談・支援、交流等を推進。社会からの孤立を防ぎ、自立を支援します。

- 介護する人へのケア
- 様々な状況に応じた多様な働き方
- 困難な状況(シングルマザー、DV等)に寄り添い自立へ
- 様々な困難な状況(難病等)をサポート

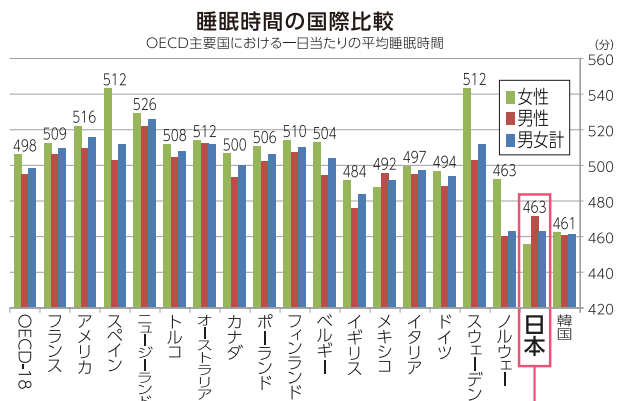
出産・子育てが、人生設計に大きな影響を与え、時に過剰な負担につながっている現状。

近年、共働き家庭が増えています。しかし、日本の女性の睡眠時間は世界最下位。一方、夫の育児・家事関連時間は約1時間程度（P7のデータ参照）。女性が睡眠時間を削って仕事・育児・家事のすべてをこなさざるを得ない状況にあると言えます。



共働きが増えたのに、子育ては母任せ!?

(出典) 総務庁「労働力調査特別調査」/ 総務省「労働力調査(詳細集計)」
(内閣府「平成27年版男女共同参画白書」)



女性の睡眠時間は世界最下位

(出典) OECD based on data from National Time Use Surveys

意工夫ある事例 ～女性の5つのシチュエーション～

子育て中 子どもが就学中



子どもの孤立防止を。子どもの安心・安全を。

地域コミュニティや多世代での助け合いを推進すること、生活マネジメント力※2を醸成すること、安全・安心を守ること、モノ、サービス、場づくり等が、子どもの社会からの孤立を防ぎ、健やかな成長の下支えとなります。

- 多世代、コミュニティでの助け合い、生活マネジメント力の醸成
- 子どもの社会からの孤立を防ぐ
- 子どもの外出時の安全・安心

アフタースクールプロジェクト



全国の学童保育の場を学びや体験につなぐ、リアルとネットを組み合わせたプログラムを開発。全国各地でのモデルプログラム開催や、プログラム動画配信・ペーパークラフト等各種ツールの無償提供を実施。
(住友生命保険相互会社/特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール)

多世代居住のコミュニティ「ひと縁」



「子育て向け住宅」と「シニア向け住宅」の併設による「多世代交流型マンション」。共通スペースやイベントを通じて交流を図る場を提供し、コミュニティ機能の復活を目指した集合住宅の提案。
(積水ハウス株式会社/積和不動産株式会社)

ペアレンティングホーム

子育てと仕事を楽しく両立できる住環境整備を目的としたシングルマザー専用のシェアハウスとして育児サポートや子育ての悩みを共有するプラットフォーム。専門スタッフの訪問チャイルドケアも実施。
(一級建築士事務所秋山立花)



ボスママ・先輩ママ

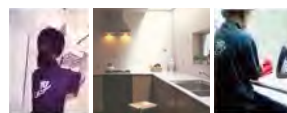


能力や経験を、社会に活かす。

個々の経験や能力を活かし、家族を含めた社会に主体的に参画・貢献できる環境づくりを推進。貴重な経験や能力を地域や次世代等に還元し、生きがいや自己肯定感の向上を図ります。

- 社会参画による自己実現・自己肯定感の向上
- 仕組み、環境づくり ●起業サポート
- 地域コミュニティでの場づくり

アクティブシニア家事代行サービス



料理、買い物、洗濯、片付け、送迎などの家事を中心に、各社の研修を受けた主婦経験豊富なベテランスタッフたちが行う家事サポート。子育て支援割引やシニア割引などもある。
(株)ダスキン/フラオグループ(株)/ミニメイド・サービス(株)/ (株)モーリーメイドジャパン)

公民館での年長者の知恵の伝承



地域活性化の中核として、住民、社会教育施設、各種団体や学校と協力しながら、三世代交流ができる伝統行事や地域資源を題材としたふるさと教育を実施。年長者から歴史や伝統にまつわる話の伝承などの効果的な学習活動。
(富山県魚津市村木公民館)

女性起業サポート

女性による新しい視点での新ビジネスを支援するため、資金、ネットワーク、起業ノウハウ等を総合的にサポート。コンペティションを開催し、受賞者には1,000万円(大賞)の事業奨励金と事後支援により事業を支援。
(株式会社日本政策投資銀行)



※2 生活マネジメント力とは、家事・子育て、消費生活などをマネジメントする知識、能力を指す造語。時間を管理し、生産性を向上させる力、足りない部分は他人の力を借りる力も含まれます。

介護ケアのためのケア

「ケアする人のケア」を掲げた市民団体。介護する人への直接的なケアやサポートの仕組みづくり、孤立しがちな介護者を社会へつなぐ仕組みづくりを目指している。
(NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン)



女性のための女性による支援

「聴く」「伝える」「繋げる」を軸に、メール相談、夜間・休日相談、携帯電話による電話相談、街頭パトロール事業を実施。対象者と年齢層に近い若年女性がスタッフとして、行政窓口に来ることができない人たちの接点となり、必要部署につなげる。(NPO法人BONDプロジェクト/東京都荒川区)



悩みを抱えた女性やシングルマザーの居場所づくり

DVIに悩む女性、シングルマザーと子どもの孤立感を解消、生活再建を支援するため就労準備支援事業を実施。神戸市パートナーシップ事業において、学習面で課題や不安を抱える人に無料の学習塾を開催し、支援。
(認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こべ(WACCA))





支えあいのネットワーク

生活スタイル変革のための国民運動を。

少子化社会のいま、妊娠、出産、子育て等にかかわる地域、職場、家庭での「支えあい」の環境づくりがますます重要になっています。

たとえば、地域における支えあいのネットワークの形成、女性が働きやすい職場環境の整備、夫の育児や家事への参加など。

政府はもちろん、NPOやNGO、企業も一緒になって、長時間労働を抑制し、多様な働き方を広げる、生活スタイル変革の動きが始まっています。

～長時間労働の解消を目指して～

夕方を楽しく活かす 働き方『ゆう活』

昼が長い夏は、朝早くから働き始め、明るい夕方のうちに仕事を終わらせ、夕方からの時間を有効に使う。この夏の生活スタイルを変革する新たな国民運動が『ゆう活』です。
官民あげた取組とするため、霞が関で率先して実施するほか、民間企業や地方自治体に働きかけます。



「ゆう」やけ時に悠々とした時間が生まれる。
「友」人と会える。
「遊」ぶ時間が増える。
家族で過ごす「優」しい時間ができる。
新しい人・モノ・ことと自分が「結」ばれる。
勤務時間が、1,2時間早まることで生まれる
自分の時間で生活を豊かにしていこう。

～女性が働きやすい職場を目指して～

経営者や管理職の意識を変える 『イクメンプロジェクト』 『イクボス』そして『イクビズ』へ

『イクメンプロジェクト』で、働く男性本人だけでなく、部下の仕事と育児の両立を支援する上司(イクボス)の普及等を図り、経営者や管理職に対し、男性の仕事と育児の両立について意識改革を進めます。さらに、より多くの企業の参加を促すためには「育児をしながら働き続ける労働者にやさしい企業」を、例えば『イクビズ』と名付けることで評価することも重要です。



～問題や課題を抱えた時のサポート～ 助け合いの情報ネットワーク

問題・課題を抱えた女性に必要な情報を届けるため、情報提供のワンストップ化と情報・支援を必要とする方への積極的情報提供を進めます。

▶女性応援ポータルサイト

子育て、仕事、企業、健康など、女性を応援する情報満載のサイトです。
<http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/ouen/>



▶よりそいホットライン

仕事・生活・心の悩み。
DV、病気、障がいの悩みなど、
どんなひとの、どんな悩みにもよりそって
一緒に解決する方法を探します。



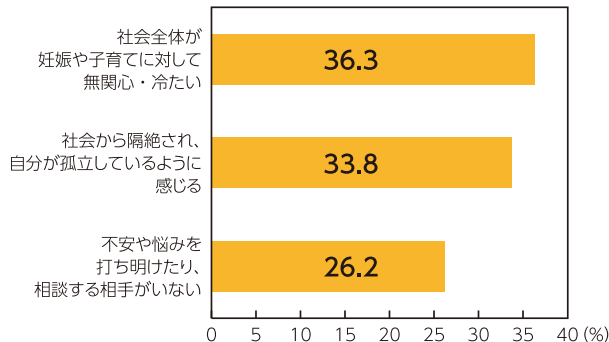
つなぐ ささえる
☎ 0120-279-338

☎ 0120-279-226 (岩手・宮城・福島専用)

データで見る「妊娠・出産・子育て」を取り巻く環境

社会全体に女性の妊娠、出産、子育て等への 無関心・無理解がみられる。

【図1 子育て中の人々に対する周囲や社会の印象】



(出典) こども未来財団「子育て中の親の外出等に関するアンケート調査」(2011年)
(注) 子育て中の人々(女性)に対する周囲や社会の印象について質問した選択肢から孤立感に関するものを抽出し、その結果を示したもの。

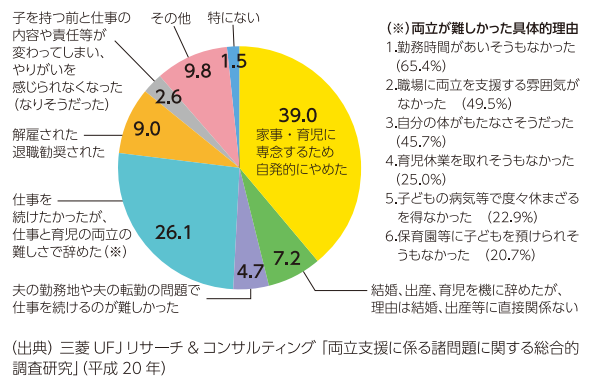
- 子育て中の女性の3人に1人が、社会は妊娠・子育てに無関心・冷たい、あるいは孤立感を感じると回答。4人に1人は、不安や悩みを相談できる相手がいないと回答。(図1)
- 一方、マタニティ・ハラスメントの相談件数は、平成25年度には2000件を超えている。妊娠・出産等を理由に解雇・減給・降格するなど、職場でのマタハラは、違法であるにもかかわらず、職場内でも、妊娠・出産・子育て等への理解不足があり、予防・対応策の強化が求められている。



女性が子育てしながら継続して働き続けやすい職場づくりや その支援体制が求められている。

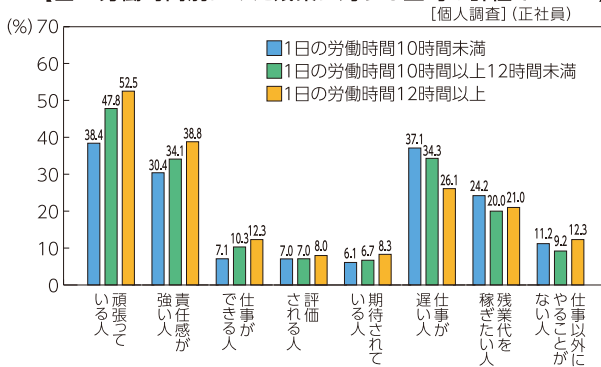
- 昭和60年(1985年)から平成21年(2009年)の間、約6割の女性が出産・育児により退職している状況が続いている。[国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦調査)」より]
 - 妊娠・出産を機に退職した理由を見ると、4人に1人は「両立が難しかったので辞めた」としている。仕事と育児の両立が難しくして退職した人のなかで、その具体的理由としてもっとも多くあげられたのが「勤務時間がいそいそなかった」。(図2)
- 勤務時間に柔軟性をもたせる多様な働き方が求められている。

【図2 妊娠・出産後に退職した理由】



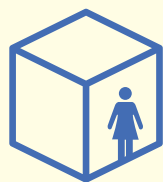
夫の家事・育児時間は少なく、 その背景には長時間労働至上主義が。

【図3 労働時間別にみた残業に対する上司の評価イメージ】



(出典) 内閣府「ワーク・ライフ・バランスに関する個人・企業調査」(2013年度)
(注) 労働者の1日あたりの労働時間(所定内労働時間と所定外労働時間の総計)別に、部下の残業を上司がどのように捉えるかを、部下が想定(イメージ)して回答したもの。

- 6歳未満の子どもをもつ夫婦共働きの夫の中で家事を行っているのは約2割、育児を行っているのは約3割。[総務省「平成23年社会基本調査」より]
 - 一方、男性正社員が育児休業を取得しなかった理由として、「職場が制度を取得しにくい雰囲気だった」が約3割というデータや、長時間労働や有休取得状況は、それらを上司がどう評価すると感じるかに影響されるというデータもある。1日の労働時間が12時間を超える人は、残業することで「頑張っている人」、「責任感が強い人」と評価されると考える人が多く、残業がプラス評価されると考える傾向がうかがえる。(図3)
- 生活スタイルの変革が求められている。



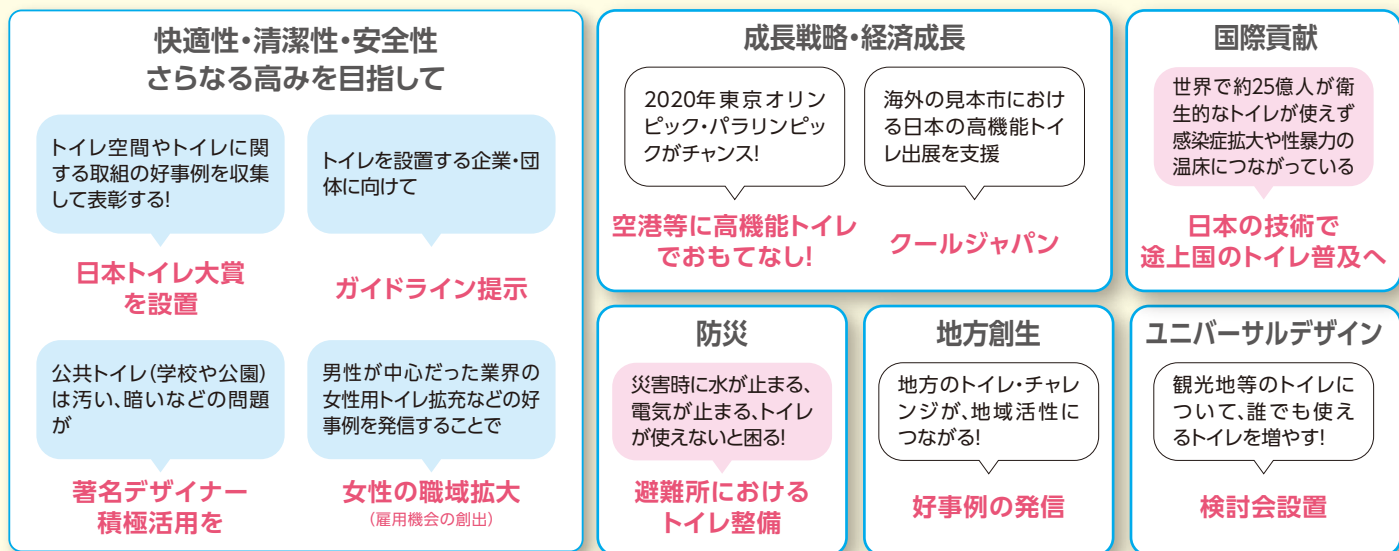
暮らしやすい空間づくり

「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を実施する。

私たちの生活に「トイレ」は欠かせません。とくに女性は、外出先のトイレ空間で、荷物の整理、歯磨き、身だしなみのチェック、乳幼児のおむつ替えなど、様々なことを行っています。

女性の暮らしに大いに影響を与えるトイレ空間は、まさに暮らしやすい空間へと転換する「象徴」といえます。

●日本のトイレが、新たな可能性を広げる!



すでに始まっています!

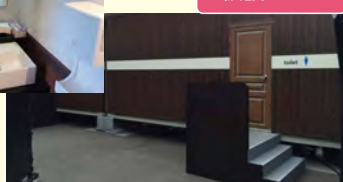
日本のトイレは ここまで進化!

公園のトイレ



(出典) 第一分科会(第2回)資料3 小林純子氏提供資料
東京都江東区東雲の公衆トイレ

仮設トイレ



(出典) 日本カルミック株式会社資料
国際イベントで設置された仮設トイレ

学校のトイレ



(出典) 学校トイレの挑戦! 2013(学校のトイレ研究会研究誌)
石川県白山市立松南小学校

👑日本トイレ大賞

～暮らしの質の向上は、快適なトイレから～

.....

ジャパン・トイレ・チャレンジに向けた機運をさらに盛り上げる、『日本トイレ大賞』。

快適なトイレ空間、国際貢献、災害対策といった活動などの事例を公募。好事例を広く紹介するとともに、優れた事例を表彰します。

詳しくは

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kurashinoshitsu/hyosho/>

「暮らしの質」向上検討会について詳しく知りたい方は

暮らしの質向上検討会

検索



<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kurashinoshitsu/>